

平成27年度
環境学習支援士養成プログラム
課題研究発表会
(資 料)



滋 賀 大 学

プログラム

日時 3月5日(土) 11:00～

場所 教育学部視聴覚教室

11:00～11:05 開会

11:05～11:30 尾原直行(社会人コース)

小学校理科授業を通じた「環境学習」についての一考察

11:30 閉会

1. 研究の目的

本研究は、小学校理科授業の中に「環境学習」を取り入れた取り組みを行い、その成果を明らかにするとともに、この試みを通して「環境学習」に対する理解を深めることを目的としたものである。

2. 研究の方法

- 1) 取り組みに当たって、環境教育とは何か、又環境教育の学校教育の中での位置付けについて文献調査及び講義受講を通して、自らの考えを整理した。
- 2) 理科教育現場での授業の現状と課題について、私の5年間7校での勤務経験を振り返り整理した。
- 3) 課題を改善する具体的な取り組みを考え、考案した取り組みを授業の中で実践した。
取り組みを考えるに当たっては、公教育の場であるので個人的な考えだけでなく根拠となる指針を確認するよう努めた。

3. 結果と考察

- 1) 具体的な取り組みとして3事例を報告でき、理科授業における「環境学習」の一つの形を示すことができた。そして理科授業の中に「環境学習」の内容を取り入れることで、各単元の学びが“環境教育の視点”でつながるなど理科学習そのものも豊かにできること、さらに支援内容を豊かなものにするという目的の実現を、先生との対話や生徒の感想から確信することができた。
- 2) 具体的な取り組みを考える上で、「環境学習指導資料」で示された”環境学習の視点”と”指導上の留意事項”に示された指針は、どのような内容をどのように理科授業に取り入れていけば良いかを具体的に示してくれるものであり、これを見いだせたことが今回の研究の最大の成果であると考えます。
- 3) 環境学習は大変領域が広く奥行きも深いものであるため、理科授業の中に「環境学習」を取り入れた取り組みだけでは所謂「環境学習」とは言えないと考えるが、「環境学習」の目標は部分的にはあるが達成できるということを確認できた。

4. 今後の取り組み

- 1) 今回実施できた事例はまだ6年単元の一部にとどまっているので、これを5年～3年まで展開し実践することで事例を増やし、今回の結果をさらに検証していく。
- 2) 特に「自然に積極的に関わり、親しむ」ということが最も重要であり、現状不十分になっているのではないかと考えるようになったので、機会を増やす様取り組んでいく。
- 3) これらの取り組みを小学校理科支援の活動の中で行い、さらに「環境学習」の展開に取り組みながら環境問題とは何かを問い続けていきたいと考えている。